

## 学修に関する情報（令和5年4月～令和6年9月実績）

### ア. 学修時間・学修実態（学修行動調査・留学率）

#### 1) 自己学修時間数

自己学修時間：授業の予習・復習や国家試験対策など授業時間以外の学修時間

1週間のうち自己学修した日数

1週間のうち最も多かった自己学修時間

1週間のうち最も少なかった自己学修時間

0～30分未満、30～60分未満、60～90分未満、90～120分未満、120～240分未満、240～360分未満、その他（実数）

#### 分析方法

学修時間の計算：選択肢の中央値で数値化し、最小と最大の平均を1日平均自己学修時間数（分）とした。1週間のうち学修した日数を乗じ、1週間平均自己学修時間数（時間）とした。

#### 2) 学修行動の自己評価 33項目（令和6年度調査は32項目）

5段階選択肢（とてもそう思う、ややそう思う、どちらでもない、そう思わない、全く思わない）  
逆転項目に配慮し、学修態度や認識が望ましいと高くなるよう1～5点を配点

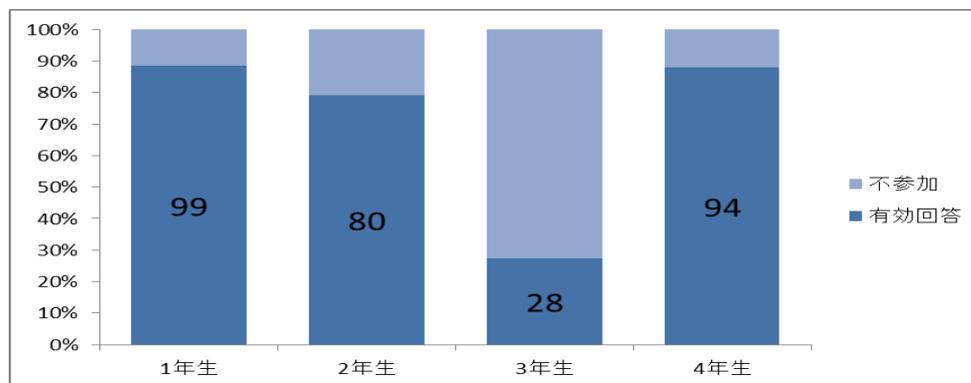
### 【令和5年度（後期）調査】

対象者 422名（休学者除く） 回答数 312名（回収率：73.9% 前年度比 90.3%）

有効回答数 296名（有効回答率：70.1% 前年度比 95.6%）

調査期間：令和5年10月2日～10月20日

図1 回答率



## 学修時間

### 1. 自己学修時間の学年比較及び過年度比較

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。全体および学年別に集計した結果は以下のとおりです。

学修行動調査における授業以外の1日あたりの自己学修時間（分）

※ヒストグラムの横軸は時間（分）、縦軸は度数を表す

図2 1週間平均自己学修時間（全校）年度間比較

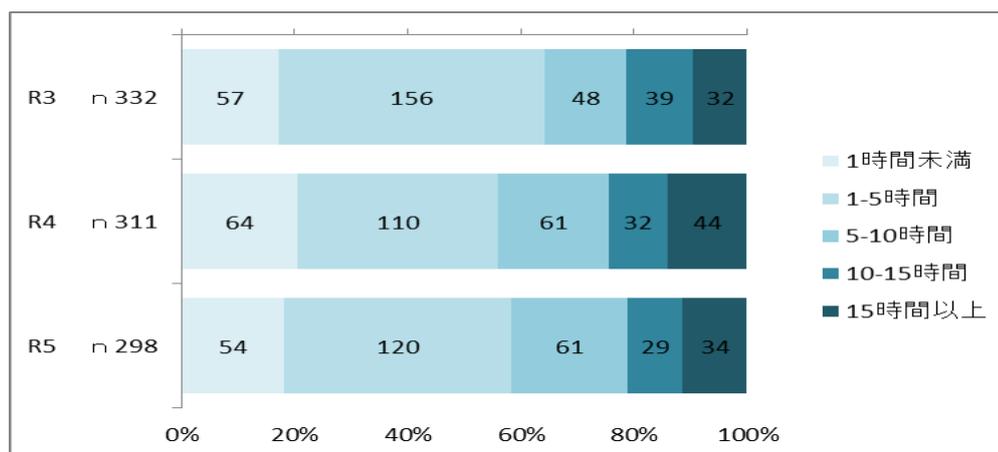
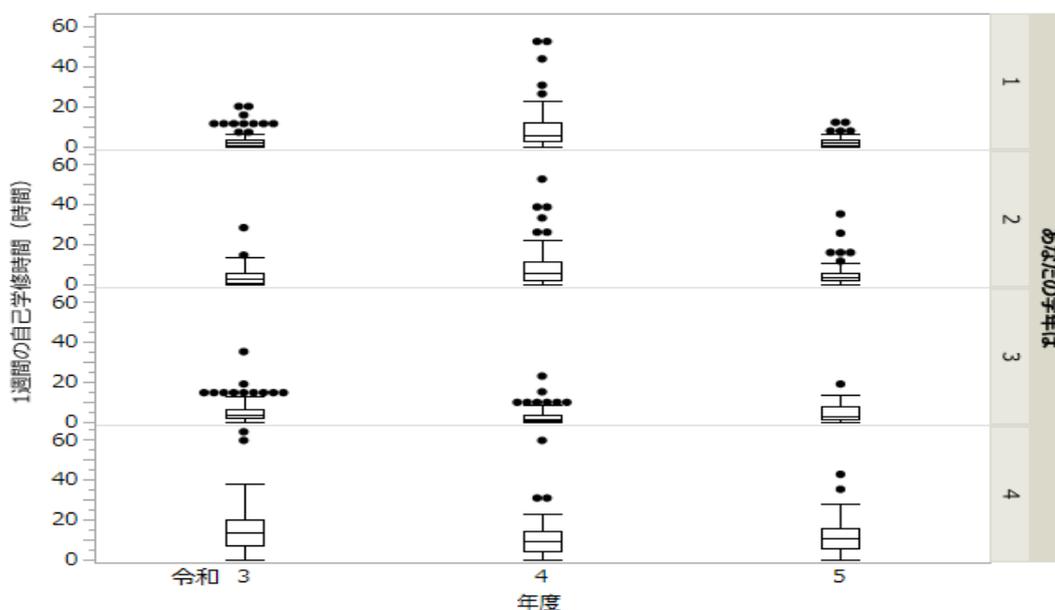


図3 1週間平均自己学修時間（学年）年度間比較

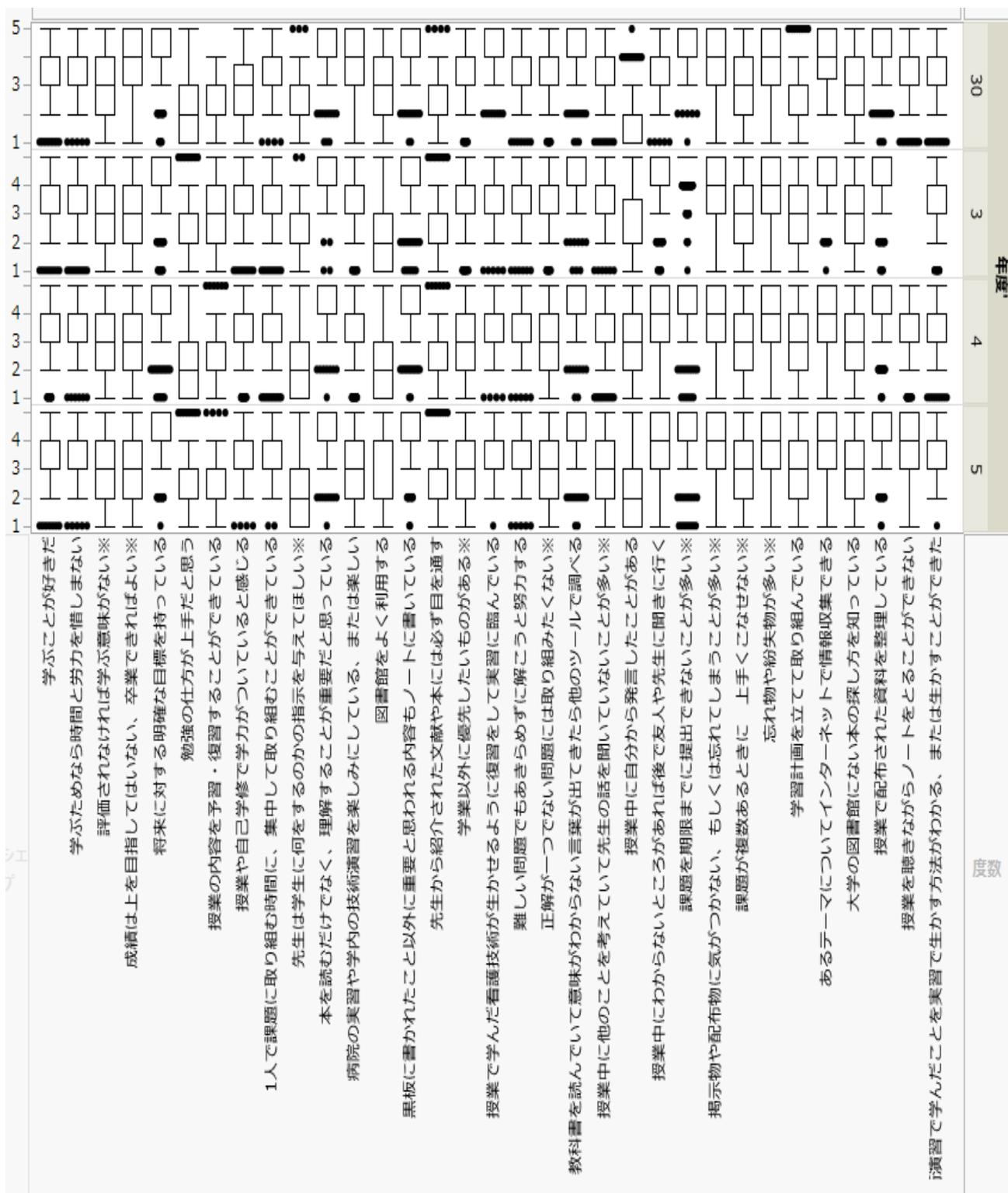


全体として、3年生は実習中のため、記録を学修時間としてカウントしていない可能性があり、全年度で短く、4年生は国家試験対策のため、学年の中では長い傾向にある。R5年はR4年と比較して、1、2年生が短く、3、4年生は長くなっている。

学修実態（学修行動調査）

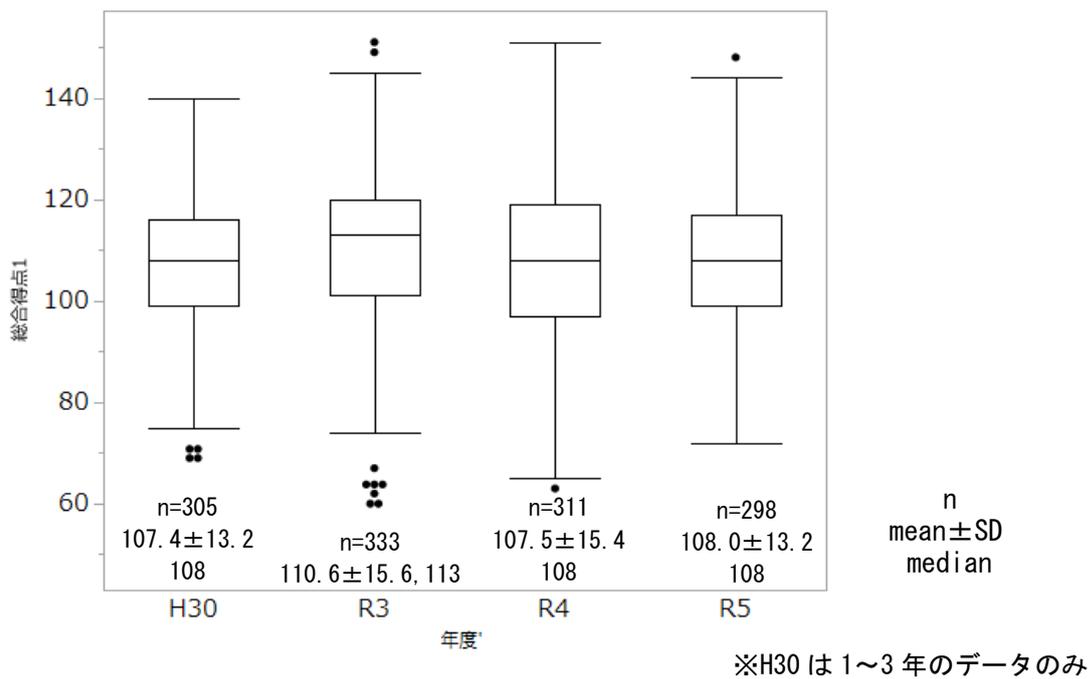
図4 学修行動調査（全学年）年度間比較

学修行動は、点数が高い方が望ましい学修態度や行動がとれていることを示す。



※逆転項目に配慮し学修行動が望ましいと高くなるように配点

図5 学修行動総合得点（全校）年度間比較



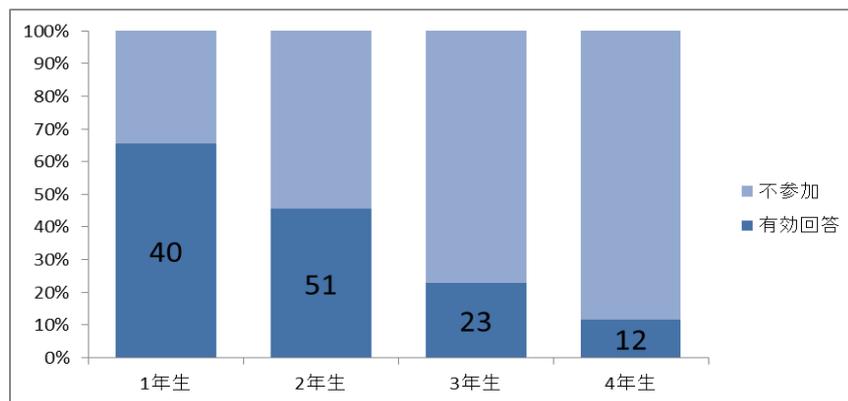
### 【令和6年度（前期）調査】

対象者 375 名（休学者除く） 回答数 138 名（回収率：36.8% 前年度比 49.7%）

有効回答数 126 名（有効回答率：33.6% 前年度比 47.9%）

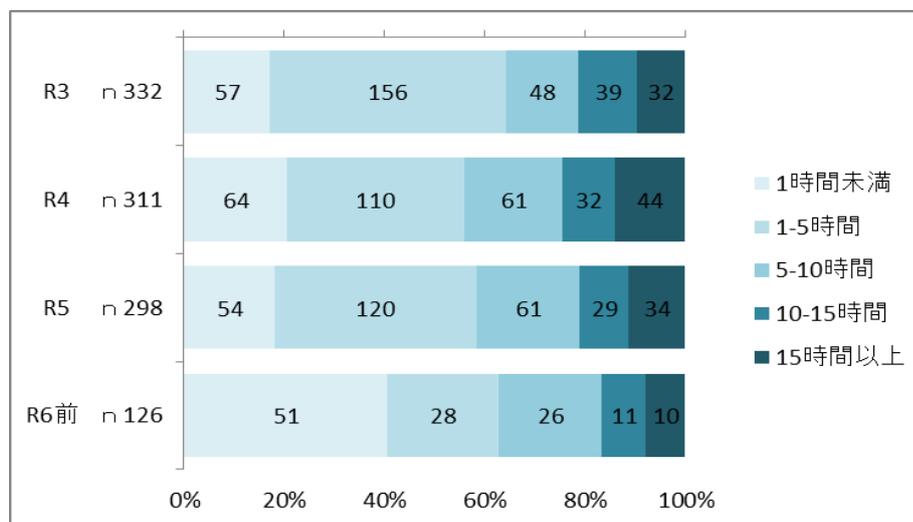
調査期間：令和 6 年 6 月 21 日～7 月 19 日

図 1 回答率



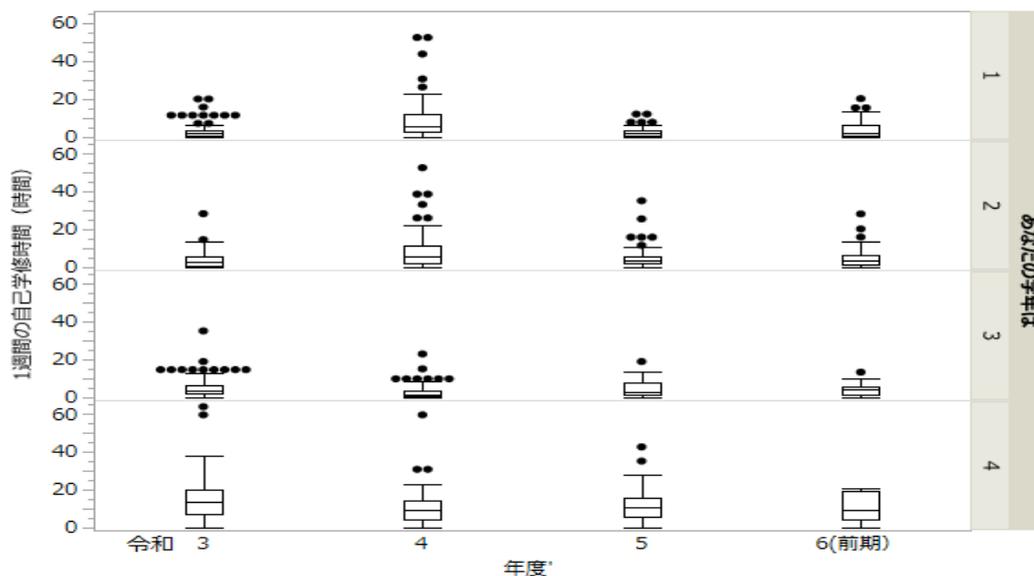
### 学修時間

図 2 1 週間平均自己学修時間（全校）年度間比較



学修時間が 1 時間未満の者の割合が多いのは、調査時期が前期と後期で異なるためかもしれない。また、4 年生の回答者が少ないことも要因であると思われる。

図3 1週間平均自己学修時間（学年）年度間比較

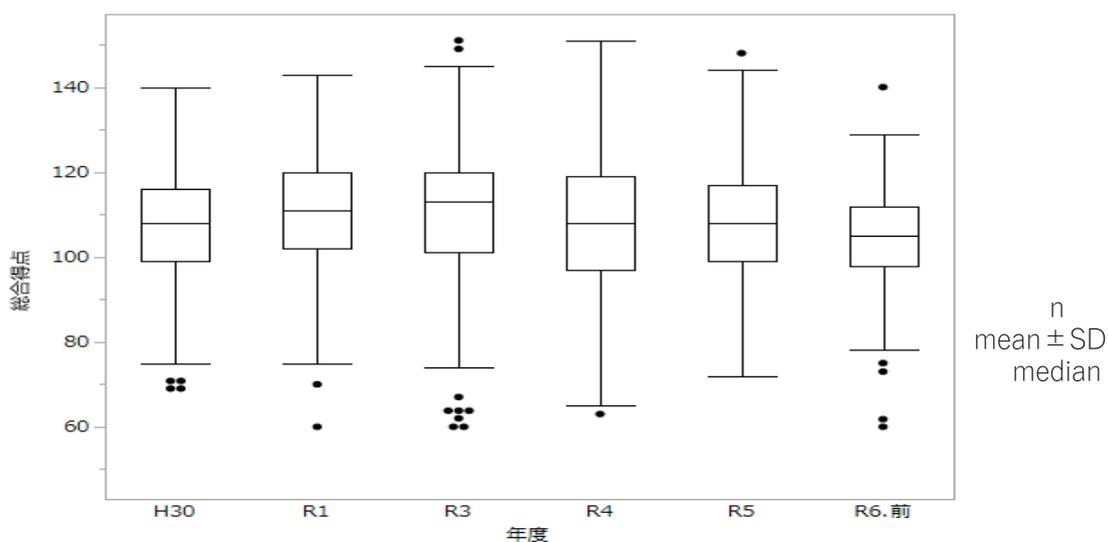


全学年で3年生が短いのは、例年、実習中のためと考察していたが、今回は前期の結果であり、学修行動が取れていない可能性がある。4年生は国家試験対策のため、学年の中では長い傾向にある。R6年はR5年と比較して、1、2年生が長く、3、4年生は短くなっている。ただし、今回は前期の調査（他年度は後期）であり、その影響の可能性もある。

**学修実態（学修行動調査）**

図4 学修行動調査（全学年）年度間比較

学修行動は、点数が高い方が望ましい学修態度や行動がとれていることを示す。  
 以下は全設問項目（32項目）の合計点の年次別比較



H30 年度は1～3年生のデータのみ

## 留学率

年度	留学者数（留学率）
令和6年度前期	該当なし（0%）
令和5年度	該当なし（0%）
令和4年度	該当なし（0%）

## イ. 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは12の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（令和五年度調査；看護学部集計分）を公表（表1）します。

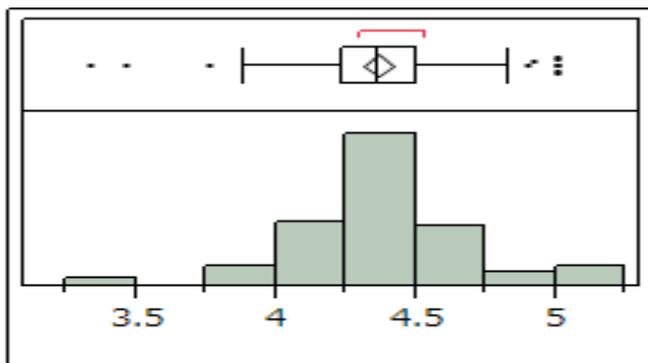
令和四年度の総合評価結果（平均値4.32、中央値4.33（表2））と比較し（令和五年度実績：平均値4.36、中央値4.37）、若干の上昇となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、評価4は「よい」を意味しており、平均・中央値とも4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

（表1）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和五年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない

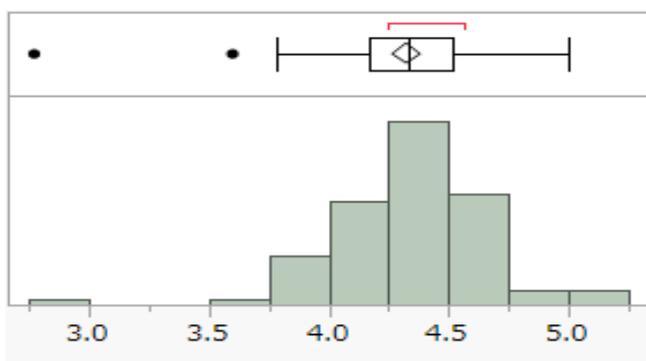


科目数	110
平均	4.36
標準偏差	0.29
中央値	4.37
範囲	3.33- 5.00

（表2）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和四年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	112
平均	4.32
標準偏差	0.30
中央値	4.33
範囲	2.77- 5.00

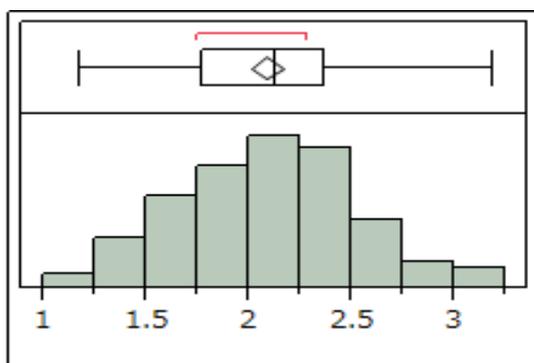
## ウ 学修成果

### ウー1 学内試験結果：GPA分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。（例：78点のGPは $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

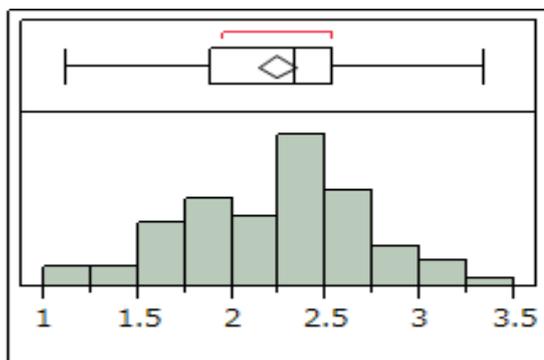
以下に、令和五年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目のGPAの分布状況を示します。令和四年度（中央値：学部1年 2.0、学部2年 2.2、学部3年 2.2、学部4年 3.4）の結果と比較すると（令和五年度中央値：学部1年 2.2、学部2年 2.3、学部3年 2.3、学部4年 2.7）、学部1～3年で、中央値がやや上昇しましたが、学部4年では減少し、例年程度（令和3年度2.9）となりました。また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるにつれて、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和五年度1年生GPA分布（1年次必修科目）



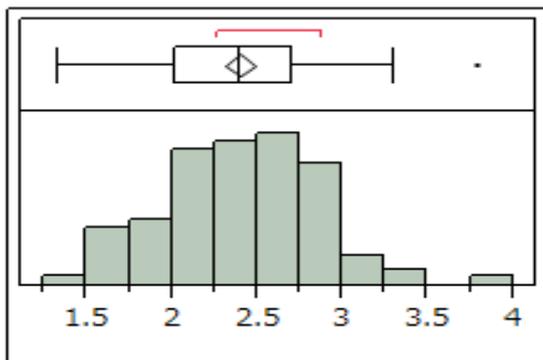
最大値	3.2
四分位点	2.4
中央値	2.2
四分位点	1.8
最小値	1.2

令和五年度2年生GPA分布（2年次必修科目）



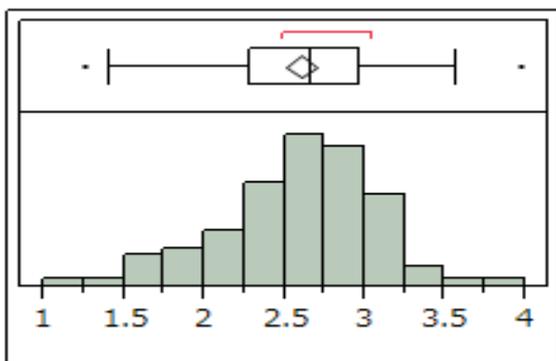
最大値	3.3
四分位点	2.5
中央値	2.3
四分位点	1.9
最小値	1.1

令和五年度3年生GPA分布（3年前期必修科目）



最大値	3.8
四分位点	2.5
中央値	2.3
四分位点	1.9
最小値	1.1

令和五年度4年生GPA分布（3年後期～4年次科目必修科目）



最大値	4.0
四分位点	3.0
中央値	2.7
四分位点	2.3
最小値	1.2

## ウー 2 単位修得状況

令和 5 年度における各学年の必修科目、選択・自由科目の平均取得単位数は以下の表のとおりです。

本学では、教育課程を体系的に学ぶことを目的に、必修科目については、全科目について履修すべき年次を指定しているため、原則として学生間に差は生じません。

選択科目については、配当年次の関係上 1 年次での履修が多く、自由科目については、コース履修（＝保健師・国際看護・グローバルスタディーズ）による単位修得が多くを占めています。保健師コースは 3・4 年次に 16 単位、国際看護コースは 3・4 年次に 3 単位以上、グローバルスタディーズコースは 1～3 年次に 5 単位以上の自由科目を履修します。

### <各学年での平均取得単位数> 令和 5 年度

学年／履修区分	必修科目	選択・自由科目 (最小値～最大値)	合計
看護学科 1 年	37	10 (7～13)	47
看護学科 2 年	37	1 (0～6)	38
看護学科 3 年	20	1 (0～6)	21
看護学科 4 年	24	3 (0～20)	27

※ 上記は進級者（4 年次については卒業認定者）の年間取得単位数の平均値

※ 2 年次については、旧カリキュラム履修者（21 期生）を除いて計上

※ 3 年次～4 年次にわたる科目（各論実習・看護研究 II）の単位数は、全学生 4 年次に計上

※ 小数点第 1 位を四捨五入

### 【参考：令和 4 年度実績】

学年／履修区分	必修科目	選択・自由科目 (最小値～最大値)	合計
看護学科 1 年	37	10 (6～13)	47
看護学科 2 年	40	1 (0～5)	41
看護学科 3 年	20	1 (0～6)	21
看護学科 4 年	24	2 (0～16)	26

※ 上記は進級者（4 年次については卒業認定者）の年間取得単位数の平均値

※ 3 年次～4 年次にわたる科目（各論実習・看護研究 II）の単位数は、全学生 4 年次に計上

※ 小数点第 1 位を四捨五入

※ 令和 4 年度入学生からカリキュラム改正

### ウー 3 到達度自己評価

看護学部 4 年生に対し、自身の 4 年間の学びを振り返り、到達目標への達成度を自己評価するアンケートを実施しています。

令和 5 年度結果についてはグラフに示すとおりです。

令和 5 年度アンケート結果の特徴として、すべての到達目標において、95%以上の学生が当てはまると回答しており、特に 10、11 番目の項目においては、80%以上の学生が「非常に当てはまる」、「かなり当てはまる」と回答していただきました。

この中で「非常に当てはまる」と最も多く回答されていたのは (45.7%)、11 「多様な価値を持つ人々を尊重しようとする姿勢を身につけることができた。」でした。

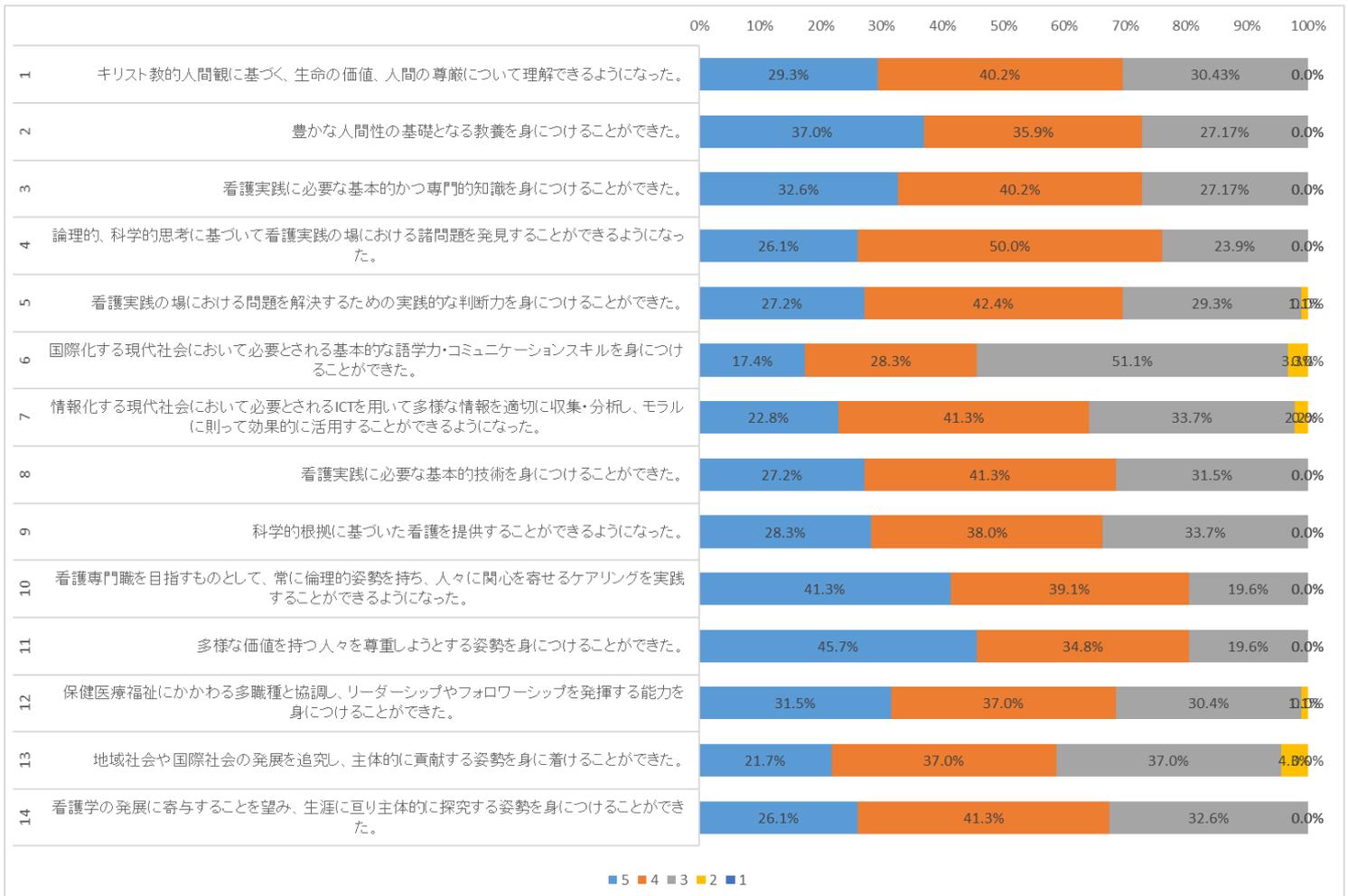
本結果で示された到達目標ごとの到達度を踏まえ、更なる教育・学生支援の向上に努めてまいります。

卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果（令和5年度卒業生、N=92、回答率85.9%）

5：非常に当てはまる 4：かなり当てはまる 3：大体当てはまる  
2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

調査日：3月2日 調査方法：Office365(Forms)にて

質問内容	5	4	3	2	1	未記入	合計
1 キリスト教的人間観に基づく、生命の価値、人間の尊厳について理解できるようになった。	27	37	28	0	0		92(件)
	29.35%	40.22%	30.43%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
2 豊かな人間性の基礎となる教養を身につけることができた。	34	33	25	0	0		92(件)
	36.96%	35.87%	27.17%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
3 看護実践に必要な基本的かつ専門的知識を身につけることができた。	30	37	25	0	0		92(件)
	32.61%	40.22%	27.17%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
4 論理的、科学的思考に基づいて看護実践の場における諸問題を発見することができるようになった。	24	46	22	0	0		92(件)
	26.09%	50.00%	23.91%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
5 看護実践の場における問題を解決するための実践的な判断力を身につけることができた。	25	39	27	1	0		92(件)
	27.17%	42.39%	29.35%	1.09%	0.00%	0.00%	100.00%
6 国際化する現代社会において必要とされる基本的な語学力・コミュニケーションスキルを身につけることができた。	16	26	47	3	0		92(件)
	17.39%	28.26%	51.09%	3.26%	0.00%	0.00%	100.00%
7 情報化する現代社会において必要とされるICTを用いて多様な情報を適切に収集・分析し、モラルに則って効果的に活用することができるようになった。	21	38	31	2	0		92(件)
	22.83%	41.30%	33.70%	2.17%	0.00%	0.00%	100.00%
8 看護実践に必要な基本的技術を身につけることができた。	25	38	29	0	0		92(件)
	27.17%	41.30%	31.52%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
9 科学的根拠に基づいた看護を提供することができるようになった。	26	35	31	0	0		92(件)
	28.26%	38.04%	33.70%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
10 看護専門職を目指すものとして、常に倫理的姿勢を持ち、人々に関心を寄せるケアリングを実践することができるようになった。	38	36	18	0	0		92(件)
	41.30%	39.13%	19.57%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
11 多様な価値を持つ人々を尊重しようとする姿勢を身につけることができた。	42	32	18	0	0		92(件)
	45.65%	34.78%	19.57%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
12 保健医療福祉にかかわる多職種と協調し、リーダーシップやフォローシップを発揮する能力を身につけることができた。	29	34	28	1	0		92(件)
	32%	37%	30%	1%	0%	0.00%	100.00%
13 地域社会や国際社会の発展を追究し、主体的に貢献する姿勢を身に着けることができた。	20	34	34	4	0		92(件)
	22%	37%	37%	4%	0%	0%	100.00%
14 看護学の発展に寄与することを望み、生涯に亘り主体的に探究する姿勢を身につけることができた。	24	38	30	0	0		92(件)
	26%	41%	33%	0%	0%	0.00%	100.00%

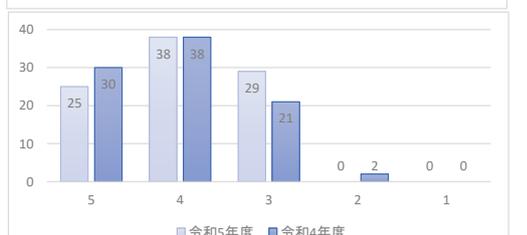
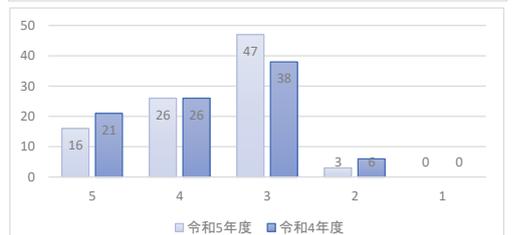
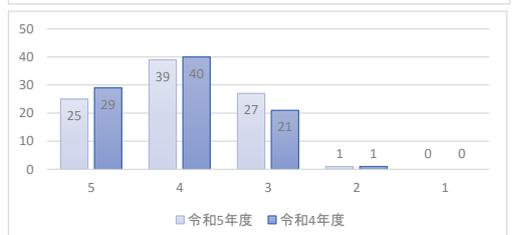
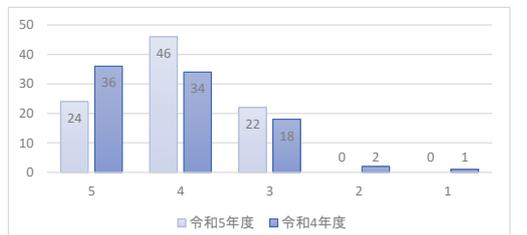
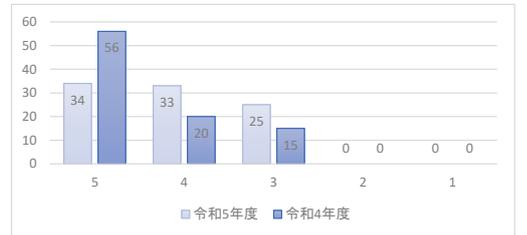
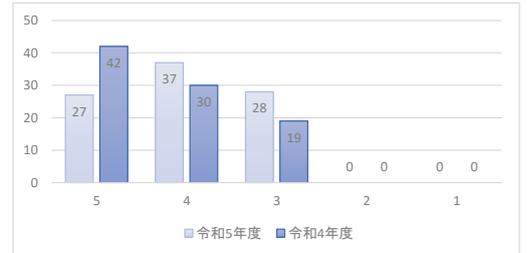


# 卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果

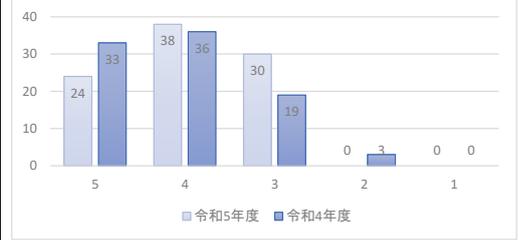
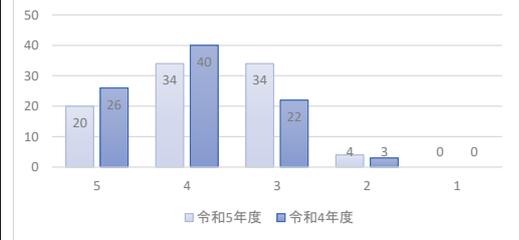
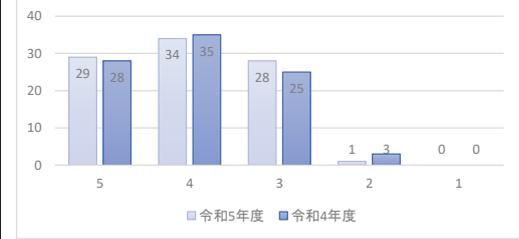
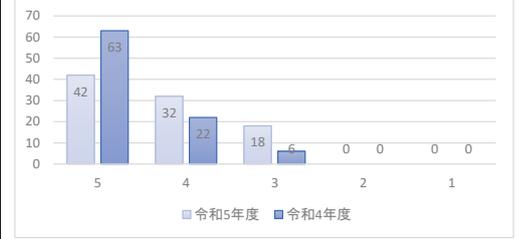
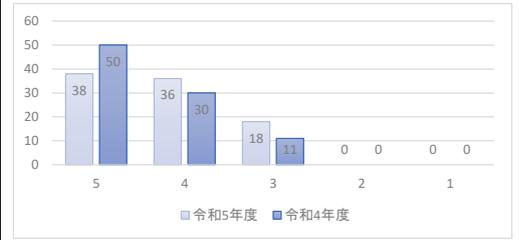
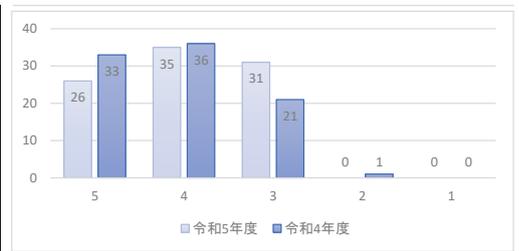
(回答率：令和5年度85.9%、令和4年度85.0%)

5：非常に当てはまる 4：かなり当てはまる 3：大体当てはまる  
2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

	選択肢 回答年度	5					4				3			2		1	未記入	合計
		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
1 キリスト教的人間観に基づく、生命の価値、人間の尊厳について理解できるようになった。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	27	37	28	0	0												92(件)
		29.3%	40.2%	30.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	42	30	19	0	0												91(件)
		46.2%	33.0%	20.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
2 豊かな人間性の基礎となる教養を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	34	33	25	0	0												92(件)
		37.0%	35.9%	27.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	56	20	15	0	0												91(件)
		61.5%	22.0%	16.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3 看護実践に必要な基本的かつ専門的知識を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	30	37	25	0	0												92(件)
		32.6%	40.2%	27.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	37	36	18	0	0												91(件)
		40.7%	39.6%	19.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
4 論理的、科学的思考に基づいて看護実践の場における諸問題を発見することができるようになった。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	24	46	22	0	0												92(件)
		26.1%	50.0%	23.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	36	34	18	2	1												91(件)
		39.6%	37.4%	19.8%	2.2%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5 看護実践の場における問題を解決するための実践的な判断力を身につけることができた	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	25	39	27	1	0												92(件)
		27.2%	42.4%	29.3%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	29	40	21	1	0												91(件)
		31.9%	44.0%	23.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
6 国際化する現代社会において必要とされる基本的な語学力・コミュニケーションスキルを身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	16	26	47	3	0												92(件)
		17.4%	28.3%	51.1%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	21	26	38	6	0												91(件)
		23.1%	28.6%	41.8%	6.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7 情報化する現代社会において必要とされるICTを用いて多様な情報を適切に収集・分析し、モラルに則って効果的に活用することができるようになった。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	21	38	31	2	0												92(件)
		22.8%	41.3%	33.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	31	31	27	2	0												91(件)
		34.1%	34.1%	29.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
8 看護実践に必要な基本的技術を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	25	38	29	0	0												92(件)
		27.2%	41.3%	31.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	30	38	21	2	0												91(件)
		33.0%	41.8%	23.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



	選択肢 回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和5年度 (2024.3月) 卒業生	26	35	31	0	0	
		28.3%	38.0%	33.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
9	科学的根拠に基づいた看護を提供することができるようになった。	令和4年度 (2023.3月) 卒業生	33	36	21	1	0	91(件)
			36.3%	39.6%	23.1%	1.1%	0.0%	0.0%
10	看護専門職を目指すものとして、常に倫理的姿勢を持ち、人々に関心を寄せるケアリングを実践することができるようになった。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	38	36	18	0	0	92(件)
			41.3%	39.1%	19.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		令和4年度 (2023.3月) 卒業生	50	30	11	0	0	91(件)
			54.9%	33.0%	12.1%	0.0%	0.0%	100.0%
11	多様な価値を持つ人々を尊重しようとする姿勢を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	42	32	18	0	0	92(件)
			45.7%	34.8%	19.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		令和4年度 (2023.3月) 卒業生	63	22	6	0	0	91(件)
			69.2%	24.2%	6.6%	0.0%	0.0%	100.0%
12	保健医療福祉にかかわる多職種と協調し、リーダーシップやフオーワーシップを發揮する能力を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	29	34	28	1	0	92(件)
			31.5%	37.0%	30.4%	1.1%	0.0%	0.0%
		令和4年度 (2023.3月) 卒業生	28	35	25	3	0	91(件)
			30.8%	38.5%	27.5%	3.3%	0.0%	100.0%
13	地域社会や国際社会の発展を追求し、主体的に貢献する姿勢を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	20	34	34	4	0	92(件)
			21.7%	37.0%	37.0%	4.3%	0.0%	0.0%
		令和4年度 (2023.3月) 卒業生	26	40	22	3	0	91(件)
			28.6%	44.0%	24.2%	3.3%	0.0%	100.0%
14	看護学の発展に寄与することを望み、生涯に亘り主体的に探究する姿勢を身につけることができた。	令和5年度 (2024.3月) 卒業生	24	38	30	0	0	92(件)
			26.1%	41.3%	32.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		令和4年度 (2023.3月) 卒業生	33	36	19	3	0	91(件)
			36.3%	39.6%	20.9%	3.3%	0.0%	100.0%



#### ウー4 資格取得等実績

本学看護学部は、看護師及び保健師（選択コース）の国家試験を受験します。令和5年度卒業生の国家試験の結果は以下のとおりです。（助産師は助産学専攻として受験）

令和4年度卒業生結果と比較すると、助産師においては引き続き合格率100%を達成することができ、保健師においても合格率が上昇し、100%の合格率を達成することができましたが、看護師においては前年度を下回り、厳しい結果となりました。

助産師・保健師に関しては、これまで同様に関連領域の教員を中心とした学修支援を行い、合格率維持を努めてまいります。看護師に関しては、学生支援センター（学修支援部門）等を中心とした学修支援の強化を図り、合格率の向上に努めてまいります。

（令和5年度卒業生）

職種	全国合格率（%）	本学				
	（新卒のみ／全体）	出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率（%）
看護師	93.2/87.8	107	107	93	14	86.9
保健師	97.7/95.7	18	18	18	0	100.0
助産師	99.3/98.8	10	10	10	0	100.0

（令和4年度卒業生）

職種	全国合格率（%）	本学				
	（新卒のみ／全体）	出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率（%）
看護師	95.5/90.8	107	107	98	9	91.6
保健師	96.8/93.7	16	16	14	2	87.5
助産師	95.9/95.6	10	10	10	0	100.0

#### ウー5 学位（看護学）取得状況

令和5年度学位授与者：107名

（令和4年度学位授与者：107名）